

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	南武線連続立体交差事業 <small>なんぶせんれんぞくりたいこうさしぎょう</small> JR南武線連続立体交差事業 （稲田堤駅～府中本町駅間） <small>いなたつち 府中ほんまち</small>	事業区分	街路	事業主体	東京都
起終点	自：東京都稲城市大丸 至：神奈川県川崎市多摩区菅 <small>かながわけんかわさきしたまくすげ</small>			延長	4.3 km
事業概要					
JR南武線矢野口駅、稲城長沼駅、南多摩駅の3駅を含む鉄道を高架化し15箇所の踏切を除却することにより交通渋滞や踏切事故、鉄道による地域分断の解消を図る。					
H4年度事業化		H4年度都市計画決定 (H13年度変更)		H5年度用地着手	
				H8年度工事着手	
全体事業費		503 億円		事業進捗率	
				52.4%	
踏切交通遮断量		248,900 台時/日		供用済延長	
				1.9 km	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 324/584億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 720/1,246億円	
	(残事業)	事業費：323/582億円 維持管理費：1.3/2.4億円		移動時間短縮便益：678/1,198億円 走行経費減少便益：27/41億円 交通事故減少便益：15/6.9億円	
	2.1			基準年 平成19年	
	2.2				
事業の効果等					
・円滑なモビリティの確保（ボトルネック踏切2箇所を含む合計15箇所の踏切の除却がされ交通改善が期待される） ・都市の再生（対象となる3駅周辺土地区画整理事業による沿道まちづくりとの連携があり、総合的なまちづくりが期待される）（他4項目に該当）					
関係する地方公共団体等の意見					
稲城市は、地域の一体化を図りながら総合的なまちづくりを展開していくことを目的に、当連立事業を稲城市の重点事業と位置付け、事業協力を行っている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
第一期区間の事業完了により主要地方道第19号線（鶴川街道）の交通渋滞が解消。第二期区間の主要地方道第9号線（府中街道）では以前激しい交通渋滞が発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
平成17年10月に第一期区間の立体化が完了し8箇所の踏切が除却された。平成18年3月から第二期区間の工事に着手し、残区間の立体化に向け事業を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
平成18年3月に、難航していた第二期区間の仮線用地取得が完了したことで、円滑な事業進捗が見込まれる。					
施設の構造や工法の変更等					
高架アプローチ部で気泡モルタル盛土工法を用いる等コスト縮減を図っている。					
対応方針		事業継続			
対応方針決定の理由					
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。